

東北大学 大学院生命科学研究科 近藤研究室 様

生態系調査のデータ収集をアプリで効率化。入力から集計までの工数を約6割削減！

簡単入力できるアプリ画面で子供から高齢者まで活用可能。調査票のペーパーレス化にも貢献

ライフサイエンスの研究・教育を推進し、社会のさまざまな問題の解決や生命のさらなる探求に挑む東北大学 大学院生命科学研究科の近藤研究室では、山岳や海岸での生態系調査を地域コミュニティと連携し実施。調査の際には紙の調査票に手書きで記入、さらに調査結果を手作業で集計していたが、記入ミスや作業工数の負担などが課題となっていた。そこでPlatioを使って調査票をアプリ化。調査結果の入力や集計作業を効率化し、さらに調査票のペーパーレス化にも貢献。より効果的な生態系調査を可能にしている。

課題・目的

- 紙の調査票では、印刷手配や配布、結果の郵送作業や、システムへ手入力して集計する手間が発生
- 調査地の位置情報（緯度・経度）は地図アプリを参照して転記していたが、記入ミスが頻発
- 水辺の調査では、紙の調査票が濡れたり、紛失したりする
- 調査中に撮影した写真は別途メールで送る必要があり、逐一管理できていなかった

選定ポイント

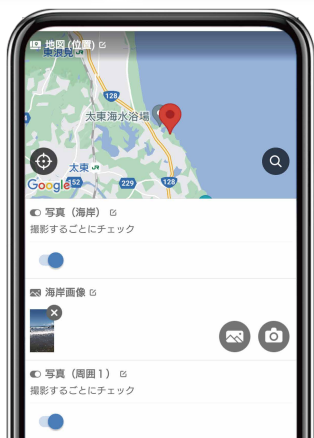
- ノーコードでアプリ作成ができ、調査内容に応じた機能追加や修正が直感的に可能
- 写真や位置情報など調査に必要なデータをアプリで手軽に収集できる
- 調査結果をCSVやExcel形式でファイル出力でき、データ分析が容易
- オフラインの現場でもアプリが利用でき、その場で報告が完結

効果

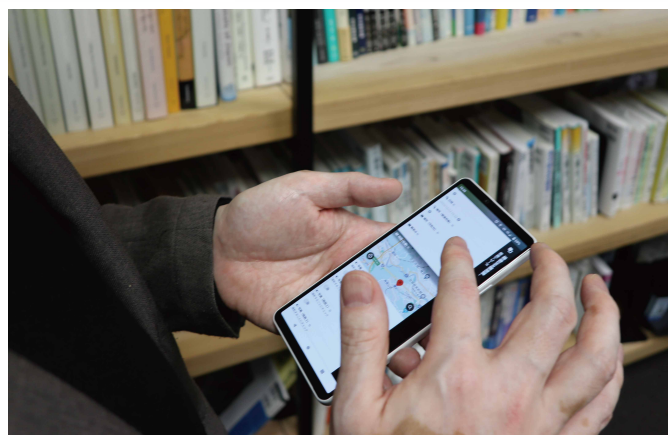
- 調査票の印刷や配布、調査後の郵送などの手間を削減
- 調査結果をシステムに手入力する必要がなくなり、データ登録・集計工数を約60%削減
- 全体の約2割あった記入ミスがゼロになり、是正工数削減とデータの正確性向上を実現
- その場で撮影した写真を登録でき、調査結果と紐づいた写真データの活用が可能に



端末の位置情報から緯度・経度の値を自動登録



調査地で撮影した写真を登録



紙の調査票を持ち歩く必要がなく、調査結果はアプリに簡単入力

ユーザーのひと言



生物多様性に関する調査は地域コミュニティと連携しながら実施しています。今回、調査測定記録アプリを活用した調査には幅広い年齢層のボランティアが参加しました。

アプリを活用することで、誰でも簡単かつ素早く調査結果を報告できるため、効率的にデータを収集できました。数を集めることが重要な調査では今以上に効果を発揮できると期待しています。

また、今回の取り組みで調査票の紙を削減することができたのは、環境への負担や影響を減らすことにつながっていると感じています。Platioは、専門的な知識がなくてもアプリを作成できるので、地域コミュニティや企業と連携した調査でさらに活用していきたいです。

東北大学 大学院生命科学研究科 教授 近藤 倫生 氏

User Profile

東北大学 大学院生命科学研究科 近藤研究室

所在地：宮城県仙台市青葉区片平二丁目1番1号

会社概要：社会のニーズと基礎生命科学の新しい進展を見据えて解決する課題に取り組めるよう、基礎から専門までを一貫して学ぶ

URL：https://www.lifesci.tohoku.ac.jp/